

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）
2026年 第32週（8月3日～8月9日）

今週のコメント

～RSウイルス感染症～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 今後の動向に注意」

第32週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,784例であり、前週比18.6%減であった。定点あたり報告数の第1位は手足口病で以下、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.15、3.10、1.27、0.98、0.52である。

手足口病の報告数は前週比32%減の571例で、大阪市南部4.94、大阪市西部4.00、中河内3.89、南河内3.27、泉州3.25であった。

感染性胃腸炎は5%減の562例で、中河内5.05、南河内5.00、北河内4.23である。

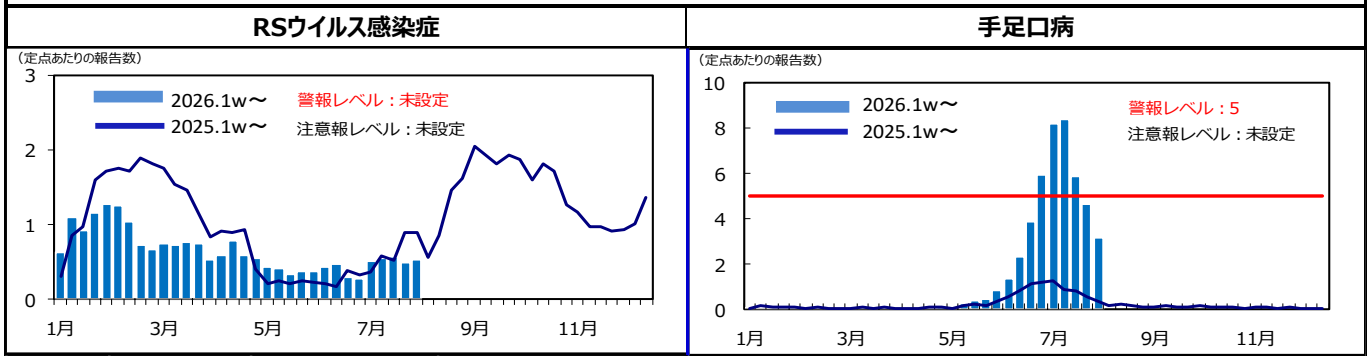
ヘルパンギーナは22%減の229例で、大阪市北部2.38、大阪市西部2.10、泉州1.75であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は13%減の177例で、北河内2.05、大阪市西部1.20、泉州1.05である。

RSウイルス感染症は7%増の95例で、南河内・大阪市北部1.00、中河内0.89であった。

新型コロナウイルス感染症は5%減の402例で、定点あたり報告数は1.41である。南河内3.22、中河内2.21、北河内2.19、堺市1.48、大阪市南部1.35であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は4%減の8,151例で、定点あたり報告数は28.60である。南河内43.22、中河内34.97、大阪市北部34.65、北河内33.14、堺市27.92であった。



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第32週8月3日～8月9日）

第32週の順位	第31週の順位	感染症	2026年第32週の定点あたり報告数	前週比増減	2025年第32週の定点あたり報告数	2026年第32週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	手足口病	3.15	32%減	0.36	1歳_40%
2	2	感染性胃腸炎	3.10	5%減	3.14	1歳_21%
3	3	ヘルパンギーナ	1.27	22%減	2.10	1歳_28%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.98	13%減	0.95	5歳_16%
5	5	RSウイルス感染症	0.52	7%増	0.83	1歳_36%
参考		新型コロナウイルス感染症 （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	1.41	5%減	4.16	1-4歳_48%
参考		急性呼吸器感染症 （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	28.60	4%減	33.25	1-4歳_47%

各疾患の詳細は、[大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）](#)をご覧ください。

第32週のコメント

～デング熱～ 海外に渡航される方は、蚊に刺されないように、服装に注意し、虫よけ剤を使うなどしましょう

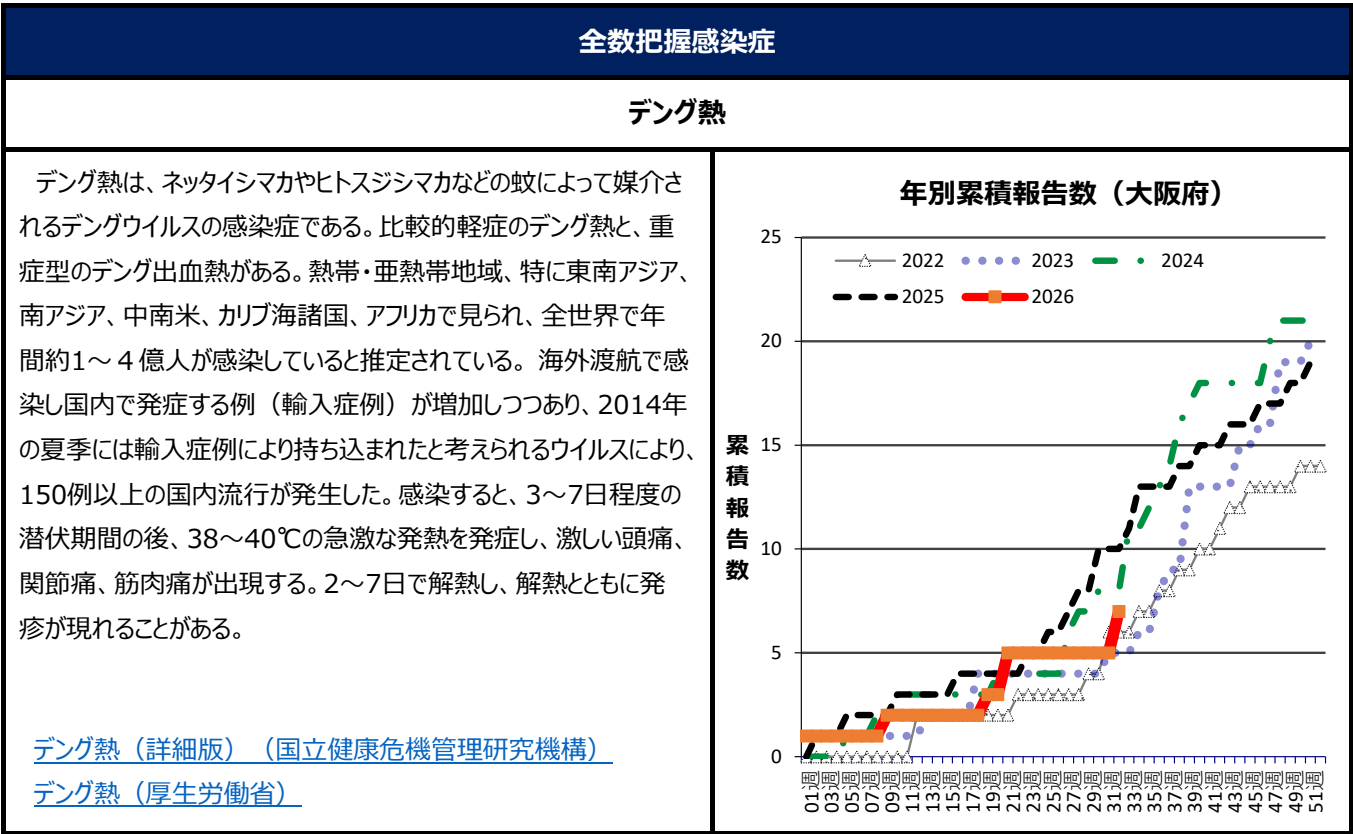


表 2. 大阪府全数報告数（2026年 第32週8月3日～8月9日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大 阪 市	府内 累積 報告 数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3								3	107
4 類感染症	デング熱	2							2		7
	日本紅斑熱	1				1					5
	レジオネラ症	1					1				101
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1			1						61
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1							1		8
	侵襲性肺炎球菌感染症	2		1						1	168
	梅毒	15	3		2	2			2	6	803
	百日咳	1			1						203
結核 (2026年6月分)	結核 新登録患者数：54名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 19名) (府内累積報告数 390名、内 肺・喀痰塗抹陽性 127名)										

(2026年8月11日 集計分)